ロミプレート®皮下注を投与されている患者さんへ

（慢性特発性血小板減少性紫斑病）

より安全な
治療のために

監修／広島大学　名誉教授
安田女子大学看護学部　看護学部長　藤村　欣吾

はじめに

ロミプレートは、慢性特発性血小板減少性紫斑病（まんせいとくはつせいけっしょうばんげんしょうせいしはんびょう）の治療において、新たな作用で血小板数をコントロールすることが可能な治療薬として認められた薬剤です。
本剤は、副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）や脾臓摘出術等にて十分な効果が得られない場合、または忍容性に問題がある（副作用や有害事象に耐えられない等）と考えられる場合で、血小板数、臨床症状からみて出血リスクが高いと考えられる場合に使用されます。

本冊子では、ロミプレートによる治療中に気をつけていただきたいことを中心にまとめていますのでご一読ください。

ロミプレート®皮下注を投与されている患者さんへ

（慢性特発性血小板減少性紫斑病）

CONTENTS

●目次 …… 3

●ロミプレート®はどんな薬? …… 4

●ロミプレート®が血小板を増やす作用とは? …… 4

●ロミプレート®の治療中によくみられる副作用 …… 5

●ロミプレート®の治療中に注意が必要な副作用 …… 6

●ロミプレート®の治療を受ける際の留意事項 …… 7

●検査記録 …… 8

ロミプレート®はどんな薬？

ロミプレートは、血小板数が少なく出血リスクのある患者さんに対して、出血リスクがおさえられるよう血小板数を増加または維持させるための薬剤です。

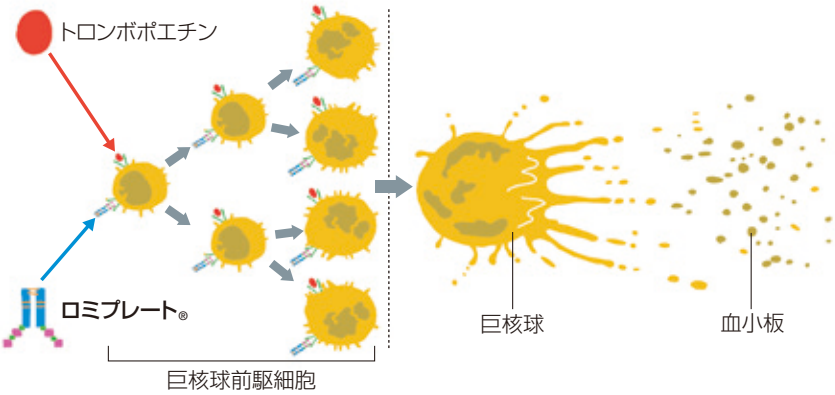
このお薬は週１回、皮下注射で投与します。

ロミプレートの治療は、慢性特発性血小板減少性紫斑病における血小板減少症の患者さんが対象になり、他の治療「副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）や脾臓摘出術等」にて十分な効果が得られない場合、または忍容性に問題がある（副作用や有害事象に耐えられない等）と考えられる場合で、血小板数、臨床症状からみて出血リスクが高いと考えられる場合に使用されます。

ロミプレート®が血小板を増やす作用とは？

ロミプレートはトロンボポエチンと同じ作用をして、血小板の産生をうながします。

トロンボポエチン（Thrombopoietin）とは、主に肝臓でつくられ、血小板の元である骨髄中の巨核球という細胞をふやす因子です。

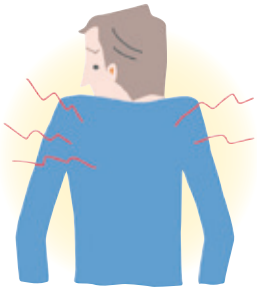


ロミプレート®の治療中に よくみられる副作用

国内臨床試験において46例中29例(63.0%)に副作用が認められました。主な副作用は、頭痛(37.0%)、倦怠感(13.0%)、背部痛(10.9%)、関節痛(8.7%)、回転性めまい(6.5%)、悪心(6.5%)、疲労(6.5%)、筋骨格硬直(4.3%)、四肢痛(4.3%)などです。

頭痛

倦怠感



背部痛

関節痛

治療中および治療後にこのような症状で、気になることがありましたら、ただちに主治医にご相談ください。

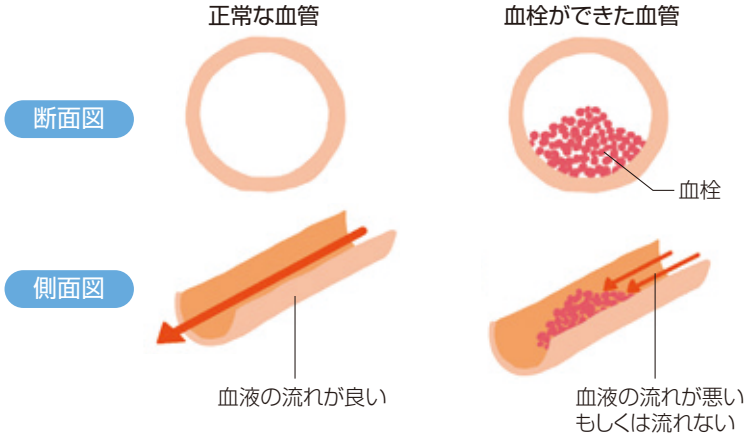
ロミプレート®の治療中に注意が必要な副作用

本治療中には、以下のような副作用があらわれることがあります。

血栓症・血栓塞栓症

血小板数が過剰に増えすぎると、血栓症や血栓塞栓症〈心筋梗塞、肺梗塞、脳梗塞〉などがあらわれることも考えられます。
投与後は定期的に症状を確認したり、血小板数を測定し、過度な増加が認められた場合は、投与量を減量したり中止するなどの適切な処置を行います。

【血栓の様子】



症状／急激な胸のいたみ、息が苦しい、意識がうすれる、突然片側の手足や顔が麻痺する、しびれ、頭痛、目がよく見えない。

治療中および治療後にこのような症状で、気になることがありましたら、ただちに主治医にご相談ください。

ロミプレート®の治療を受ける際の留意事項

1. ロミプレートの治療を受ける際は、医師または医療従事者の指示に従ってください。

2. ロミプレートの投与は、出血リスクの軽減が可能と考えられる血小板数5万/μL以上への増加および維持を目安にしています。血小板数を正常化したり、特発性血小板減少性紫斑病の治癒を目的とした治療薬ではありません。

3. ロミプレートの投与前および投与期間中は、定期的な血液検査を実施し、各種血球の数や形態などを調べます。

4. ロミプレートを過量投与すると、過度の血小板増加を認める可能性もあり、血栓症または血栓塞栓症を生じることも考えられます。

5. ロミプレートの投与を中止した場合、治療前よりも血小板数が減少したり、出血リスクが増加する可能性がありますので、ロミプレートを中止した場合、状態を十分に観察し、中止後少なくとも4週間は血小板の数に留意するため、頻回に血液検査を実施します。

6. ロミプレートの投与によって、骨髄中の細網線維（レチクリン）が増生したり、骨髄線維症に至る可能性があります。血球形態の異常または血球減少を認めた場合は、ロミプレートの投与を中止し、原因を検索します。

7. ロミプレートは骨髄中の細胞に作用するので、骨髄異形成症候群（MDS）※または造血器腫瘍が基礎疾患にある場合、進行リスクを増大させる可能性があります。

※MDS：骨髄中にある血液の元になる細胞（造血幹細胞）に異常を生じ、十分な量の血球を作ることができなくなることから、血球減少を起こす病気です。異常な造血幹細胞から作られた血球は形態も異常となります。

この記録用紙を使用される場合に、「血小板の数」「ロミプレートの投与量」や「併用薬」について

検査記録

（例）

月／日（曜日）	4／15（火）	／　（　）	／　（　）
血小板の数（万/μL）	2.9（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
ロミプレートの投与量（μg/kg）	1（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）
併用薬	副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）10mg/1日		
出血傾向など気になる症状、体調ほか（自由記載）	4/12 鼻血が出た。 4/13 頭痛がした。		

月／日（曜日）	／　（　）	／　（　）	／　（　）
血小板の数（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
ロミプレートの投与量（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）
併用薬			
出血傾向など気になる症状、体調ほか（自由記載）			

分からないことがあれば、医療従事者に尋ねるか、医療従事者に直接記入をお願いしてください。

氏名：

／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）
（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）

／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）
（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）

この記録用紙を使用される場合に、「血小板の数」「ロミプレートの投与量」や「併用薬」について

検査記録

月／日（曜日）	／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）
血小板の数 （万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
ロミプレートの投与量 （μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）
併用薬			
出血傾向など 気になる症状、 体調ほか （自由記載）			

月／日（曜日）	／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）
血小板の数 （万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
ロミプレートの投与量 （μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）
併用薬			
出血傾向など 気になる症状、 体調ほか （自由記載）			

分からないことがあれば、医療従事者に尋ねるか、医療従事者に直接記入をお願いしてください。

氏名：

／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）
（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）

／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）	／　（　　）
（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）	（万/μL）
（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）	（μg/kg）

医療機関名（連絡先）

協和キリン株式会社

KK-18-10-23725（1904）
RPT0053C16F
2019年11月作成
®登録商標